

その いずみの園だより vol.65

2015.12.10

クリスマス号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙 I 13:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンターいずみの園

基本理念

神と人に仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



いずみの園の玄関

ここでは、早世された田中牧師を偲び、巻頭のことばにさせていただきます。田中先生は陸軍士官学校の出身者で、長身のがっしりした体格で常にダンディな方でした。度々東京へ行かれ公有地払下げの情報収集や交渉に時間を割いておられたようでした。しかし、体調をくずされ、県立病院に入院後、天に召されました。乃美牧師と小生が県病へかけつけ、ご遺体を大分東教会二階のゲストルームに運びました。先生のお体を私が背負い、階段を上ったことが忘れられません。乃美牧師の司式により、大分東教会初の「葬儀・告別式」を執り行いました。「いずみの園」をはじめ、事業団の多くの業を見守って下さると信じています。

その後、中津教会の多田一三牧師・竹田教会の田中智久牧師とともに、「九州キリスト教社会福祉事業団」を企画され、中津市での国有地払下げに尽力され「特別養護老人ホームいずみの園」の開設が実現したと理解しています。あたかも、「三国志」にたとえれば、乃美牧師が劉備、多田牧師が張飛、田中牧師が関羽の如くであったと、勝手に想像しています。三人の先生方がどのように誓いを立てられたかは存じませんが、必ずや「桃園の誓い」に似たお気持ちで事業団開設の推進力になったものと確信しています。多田牧師(前法人理事長)は皆様ご存じのように、バイタリティ溢れる行動の人でした。

小生は1973年4月から大分工業高等専門学校に奉職し、乃美尚敏牧師が牧会しておられた「大分東教会」の門を叩きました。乃美先生は同志社大学を卒業後、長崎県大島での開拓伝道をされてから、大分の地に来られました。その後、花高松の土地を選ばれるとき、東隣に児童公園(防災時の避難公園)の計画があり、保育園の構想を持ちつつ、土地の購入を決意されたと聞いています。今はそのとおり、すべてが「めぐみ保育園」の土地となりました。1971年8月、認可保育園「社会福祉法人めぐみ保育園」としての歩みが始まっています。

いずみの園・三国志「桃園の誓い」



社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団 理事
めぐみ保育園 園長

島田 晋

2015年度第3回理事会・同第3回評議員会が開催されました。

11月16日(月)に、第3回理事会・評議員会が「いずみの園地域交流ホームいずみ館」において開催されました。

まず、富永理事長が開会で「今後、社会福祉法人の在り方が厳しく問われ、ガバナンス、役員会の強化、会計、経営の透明化が求められてくる。また、社会貢献も義務化されてくるのが予測されるので、しっかり対応していきたい。」との挨拶があり、続いて新しい3名の評議員(清源万里子氏・弁護士、坂田弘光氏/理事併任・社福法人理事長、松本新子氏・学校法人理事長)の自己紹介のあと、議長選出ののち議事に入りました。

審議事項の①2015年度第1次補正予算案、②規程改正(マイナンバー制の導入等)について全員一致で可決され、続いて報告事項として、①「いずみの園新5か年プランの進捗中間報告」②「ボランティアグループ2毛作会」③「行政監査報告」④「障がい事業新事業計画報告」⑤「認知症対策などにつき状況報告」があり、いくつかの質疑を経て了承・可決されました。

新しい評議員も加わり、国会での改正社会福祉法審議状況もにらみながら、社会福祉法人の原点に立ち返った活動にまい進していくスタートになります。(法人本部事務局)



第3回評議員会の様子

ケアマンション聖愛ホーム開設20周年を祝って



開設20周年記念昼食会の様子



感謝の集いコンサート「この道～光をたずねて～」の様子

「ケアマンション聖愛ホーム」は、入居者の皆様や多くの方々を支えられ、今年9月に開設20周年を迎えることが出来ました。開設20周年を記念して、9月1日(火)に記念礼拝、昼食会が行われました。

午前11時より、チャペルにて堤チャプレンより「ともに歩む」と題して説教がありました。その後12時からの昼食会では創作フランス料理のフルコースを提供しました。

今回は手作りパンや、抹茶とセロリのソルベに桃のソースを添えた一品、メインには耶馬溪牛のサーロイン等、調理員と栄養士が知恵を出し合い感謝の気持ちを込めた食事会となりました。

また、9月20日(日)14:00～15:45分には開設20周年感謝の集いコンサートを開催しました。まず、富永理事長の挨拶では、開設当初から今日に至るまでの経緯や、日頃から大変お世話になった方々に感謝の言葉が述べられ、その後「この道～光をたずねて～」と題して、群馬県で活躍されているプロの音楽家3人による朗読と、ソプラノの歌とピアノによるコンサートを開催しました。コンサートホールで聴くような素晴らしい歌声や朗読・ピアノに魅了され、とても感動しました。

開設より20年、たくさんの方々に出会い、支えていただき心より感謝申し上げます。

これから、新たな歩みを進めていきたいと思っております。

(ケアマンション聖愛ホーム)

人事異動

2015年8月2日以降

- ① 異動役職者.....
- 11月1日付 堂本 高雄 総務部長兼医療事業部長
- ② 異動一般職.....
- 10月1日付 山田 大輝 ふれあい館 生活相談員兼介護員
 - 小島左姫子 グループホームベテルハウス 介護員
 - 富永 義道 経営企画室 事務員

- ③ 新採用.....
- 9月1日付 岡川由香利 介護課 介護員
 - 大新田あすか 児童サービス課 児童指導員
 - 9月7日付 岩永 梨沙 訪問介護課 ヘルパー
 - 9月14日付 足立亜希子 介護課 介護員
 - 9月16日付 赤 美保 介護課 介護員
 - 10月5日付 東 比呂子 聖愛ホーム 介護員
 - 10月19日付 大森かえで 介護課 介護員
 - 11月9日付 後藤 幸江 介護課 介護員
 - 11月24日付 西谷 慧 ふれんど館 介護員

(以上2015年11月24日まで)

いずみの園ボランティア団体『2毛作会』発足



『2毛作会』発足式の様子

『2毛作会』の指針は「誰でも」「いつでも」「どこでも」「気軽に」「楽しく」です。『2毛作会』組織が小さい一歩から地域の助け合い・高齢者等の交流拠点づくりなどの活動の拠点となり、地域ボランティアの実践組織につながっていきたくらと思っていま

2014年10月29日、定年後の男(女)性、子育て後の女(男)性にボランティア活動への参加を呼びかけるため「いずみの園・ボランティア等組織化推進班」を立ち上げました。今回、その推進班が進めてきた『2毛作会』の発足式(2015年11月13日)を迎え、ようやく歩きだすことが出来ました。約1年に亘る会議を重ね、多くのことを検討しました。この『2毛作会』に心よく賛同し入会申込みをして頂きました皆さんに、推進班メンバーの1人として心より感謝申し上げます。ご入会頂いた皆様の今後の活動により、今後益々会員が増え、新たな地域支援の会となるように願っています。



人材育成・研修センター
安藤 ふちえ



ボランティア入門講座「物づくり(竹とんぼ)教室」

人材育成「エルダー制度」について



エルダー(右)の指導の様子

③こうしたことを通じエルダーと新入職員が同じ方向に向かって進んでいくことができると。今後この「エルダー制度」の取り組みを続け、「職員のケアの質の向上、職員の不安や悩み軽減による「職員の定着化」を図り、安定したケアが提供できるよう努めたいと考えています。

「いずみの園」には、介護の資格を持っていない方や高卒の方も入職してこられます。その方達がケアを行うにあたって、職業人としての基本姿勢・態度・マナー、専門的な知識や技術を身に付け、ご利用者に対し根拠を持ったサービスを提供できるように、新入職員の人材育成に力を入れています。その取り組みとして、2015年4月より「エルダー制度」を導入しました。「エルダー」とは教育担当のようなもので、役職者ではない先輩職員を選任します。「エルダー」は実務指導だけでなく、新入職員のお姉さん、お兄さん役として職場での悩みや不安を聞き、一緒に解決していくことで、一日も早く職場に慣れるようサポートしています。また、「エルダー」も新入職員の指導や教育を行うことで自分自身を振り返り、共に成長していくことにつながっています。新入職員の習熟度を確認する際には、①所定のチェックリストを使用(3か月に1度、面談形式で確認する)②面談の中で、その時点での達成度を確認(その後の課題や目標を明らかにする)



特養事業部介護課
課長 野見山 晃

『第5回法人内職員研修会』を、「グレース保育園」で開催しました。



理事長講話の様子

閉会の言葉と「主の祈り」を祈りました。今後とも、地域と共に歩み、社会福祉法人としての本来の目的と理念のもと、より良い福祉サービスを提供するため、職員一同、学び・実践してまいります。(法人本部事務局)

まず、富永理事長から講話「地域から信頼される法人」があり、その後3保育園から実践報告及び「グレース保育園」内の施設見学があり、後半は本年4月開所の「福祉の里センターサマリア館」から児童サービスクの事業概要、法人本部から人材確保等の取組について報告がありました。最後にチャップレンから

本年で5回を数える当法人内の「中津総合ケアセンターいずみの園」と「めぐみ保育園(大分市)」「犀川のぞみ保育園(福岡県みやこ町)」「グレース保育園(中津市)」の3保育園職員を対象とする『法人内職員研修会』を8月22日(土)午後、「グレース保育園」の地域子育て支援センター「ほーる」で開催しました。



参加した職員

いずみの園広場

ご利用者ご家族の声



デイサービスセンターかきぜ

永添静香様のご家族 永添 宣行様

私たち家族は、「いずみの園」の皆さまとは長いお付き合いになります。83歳になる母は数年前に次女を亡くし、現在は中津で一人暮らしをしています。妹が脳梗塞になって以降、「いずみの園」のショートステイでお世話になり、最後は寝たきりとなるまでスタッフの皆さまに温かく献身的にお世話をいただきました。歳老いた母も娘の看病をすることが張り合いにもなり頑張っていました。娘を亡くしたのち、デイサービスを利用させて頂くこととなりました。今は「デイサービスセンターかきぜ」に週3回通わせて頂いており、一人暮らしの生活に、また新たな張り合いが出来たようです。先日も、ケアマネジャーさんから「いずみの園フェスタ」に、母が趣味で作っている「アクリルたわしを出しませんか？」とお話を頂き、張り切って30個をあつという間に仕上げてくださいました。本来、長男である私が身近にいて支えにならないといけないのですが、熊本という遠隔地におり、母には大変申し訳ない気持ちと罪悪感でいっぱいですが、そのような中、いつも温かく励ましてくださるのがケアマネジャーをはじめとするスタッフの皆さまです。母本人だけでなく、家族の心にも寄り添っていただき、私たち家族の心の支えにもなって頂いています。月1〜2回のペースでしか帰省できませんがその間、ヘルパーさんの訪問やコールサービスで一人暮らしの母をいつも誰かが見守ってくれているという安心感を頂いています。今後ともよろしくお願いいたします。



ご利用者ご家族の声



グループホームベテルハウス

宇都宮スミ子様のご家族 生野 法子様

大正14年2月生れの母は現在90才、「グループホームベテルハウス」に入居して2年近くになります。

85才頃から認知症の症状が現われ、長年患っていた父が他界したところから一気に悪化。「いずみの園ふれんど館」で週3回のデイサービスを利用していましたが、家での生活に見守りが必要となり月1回程度のショートステイも利用させて頂くようになりました。そんなとき、ケアマネジャーさんからグループホームの話を知り早速申し込みましたところ、母の運の強さでしょうか、1年足らずで「グループホームベテルハウス」に入居させて頂きました。

送り出す家族としては不安もありましたが、ホームでの生活は家で生活する様に家事を手伝わせて頂き、我が儘でお喋り好きな母の相手を常に笑顔で対応して下さり、四季折々の外出に加え、気分転換のドライブ。戦中戦後の厳しい時代を生きてきた世代、その時代を忘れさせる様な温かい見守り。精神的、身体的な面に於いても手早い処置を取って下さり、全ておまかせで申し訳なく、職員さん達の努力、大変さは計り知る事が出来ません。母は折にふれ両手を合わせ、「ありがとう、感謝している」と言います。穏やかな生活を送らせて頂いている証です。家族としても感謝しています。

「ありがとうございます」の言葉でしか伝えられませんが、職員の皆様の健康を祈りつつ、これからもうぞ宜しくお願い申し上げます。



福祉の里センター サマリア館 事業紹介

訪問看護ステーション

かきせサポートセンター訪問看護課 課長 有隅たまき

「訪問看護ステーション」は、1997年から事業を開始し、18年になります。現在看護師5名と理学療法士1名・作業療法士1名の計7名の職員がいます。本年4月に新設された「福祉の里センター サマリア館」の2階に事業所も移転し、気持ち新たに頑張っています。

事業内容はご自宅を訪問し、健康状態の観察を行い、内服管理やリハビリ、点滴やインシュリン注射、胃ろうの管理等の医療処置・治療上の看護を行います。

医師と連携し、痛み・発熱・呼吸困難等の苦痛症状の緩和を図り、看取り看護や家族支援も行っています。

異常の早期発見や予防にも力を入れています。また、在宅療養に関する心配や不安を軽減し、病状の悪化を防ぐことができるよう支援を行っています。



中津市地域子育て支援センターポール

かきせサポートセンター児童サービス課 課長 今永 弘枝

「中津市地域子育て支援センターポール」は、今年の4月に新設された「福祉の里センターサマリア館」の中にあります。

この事業は中津市の委託事業で、地域の親子の育児サポートとして、子育て親子が気軽に集い、親同士の交流、子どもたちが安心して遊べる場所の提供を行っています。また、育児や生活に関する不安などの相談、情報の提供なども行っています。

開所日時は、月曜日から金曜日まで、朝9時からお昼2時までとなっています。

週に1回、親子支援のための行事を行っています。「おはなし広場」、「おやこで工作」、「お口の健康」、「ベビーマッサージ」、「リズム遊び」などです。

子育て親子が孤立しないよう、子育ての不安感を緩和し、子どもの健康やかな育ちを地域で支えていけるように取り組んでいます。



大分大学佐藤先生の相談会を行っています



相談の様子

お子さんとの関わりで、迷うことや困っていること、子ども自身周囲との関わりやコミュニケーションで困っていること、これから先への不安など、様々な相談を受けています。

今後は、地域の方々とともに支えられる場所づくりとして、障がいのある無関係なく、地域の方からの「なんとなく他の子どもと違う気がする」、「子どもの行動が気になる」、「育てにくい」など、発達に関する気になることを、気軽に相談できる「地域の相談窓口」になれるようにと考えています。

かきせサポートセンター児童サービス課 課長 今永 弘枝

「中津総合ケアセンターいずみの園」では、障がい児(者)の支援として、障がい児の通所事業・児童発達支援・放課後等デイサービス事業所マルコ、就労支援の「多機能型事業所ワークセンターシャローム」を行っています。

障がい児(者)の理解を深め、一人ひとりの個性と能力に応じた支援ができるように、大分大学准教授の佐藤晋治先生(発達障がい臨床心理学)をお招きして、月に1回職員勉強会を行っています。

今年の6月からは、障がいを持たれているお子さんの保護者の方への相談会を、月に1回「福祉の里センターサマリア館」で行っています。



相談室(左)と児童発達支援・放課後等デイサービスマルコ(右)

シリーズ 「キアラハン邸」

さて、今回掲載されている写真は、大分市の日本文理大学キャンパス内にて撮影された「キアラハン邸」です。

この立派な洋風建築は、明治時代、キリスト教布教のため来日したアメリカ人宣教師「ウィリアム・ジャクソン・キアラハン」によって「中津市」に建てられたものです。しかし、建物の老朽化などの問題により、1993年に中津市から大分市の日本文理大学キャンパス内へと移築復元されました。

「キアラハン邸」の正確な建造年は不明ですが、1903年(明治36年)5月13日登記「北亞米利加合衆国ジョージア州ホワイツビル村 下毛郡中津町2229番地ダブリュー・ゼ・キアラハン右所有権登記」とある通り、少なくともそれ以前に建設されたものようです。

それから1935年に帰国するまで、中津地区のキリスト教の布教に尽力してこられた。そのキアラハン氏の偉大な功績をこの「キアラハン邸」は現代に伝えてくれる、貴重な建築物なのです。



移築後のキアラハン邸

10月10日
(土)に鳥

第6回「オールジャパン ケアコンテスト」で、 いずみの園の職員が優秀賞を受賞しました。



コンテストでの河野主任の様子

大会を運営された関係者の皆様、及び参加された選手の皆様、本当にお疲れ様でした。
(特養事業部)

このコンテストは、それぞれの介護従事者が日頃の技術を披露することによって、参加する選手たち、来場した関係者らとともに絆を深め、介護の質の向上をめざし、介護環境をよりいっそう豊かにしていくことを目的とした大会です。
コンテスト当日は、全国から募った計120名の選手が集結し、「認知症」「食事」「入浴」「排泄」「看取り」「口腔ケア」の6分野で、それぞれ課題に応じた実技を披露。アドバタイザーによる審査・評価が行われました。
受賞した河野主任は、「このような機会に恵まれて、大変勉強になりました。」とのことでした。

取県米子市
米子コンベンションホールで行われた第6回「オールジャパン ケアコンテスト」の排泄A部門
(実務経験5年以上)において、「いずみの園」の特養事業部介護課 河野英之主任が、優秀賞を受賞しました。



優秀賞の表彰状

感染防止対策の取組みについて



特養事業部看護課
課長 中島三佐江

感染症とは、病気の原因になるウイルスや細菌が体内に侵入し増殖して症状を引き起こす疾病です。人が感染したとしても、全ての人が発症するわけではなく、感染成立には個人の免疫力も関与しています。
社会福祉施設は、利用者の高齢化や重度化により、抵抗力の弱い方々が生活をされているため、感染リスクが高い状況にあると言えます。

職員は、感染予防を実践することが重要であり、これは利用者へ安全で快適な環境を提供する上での基盤にもなります。

具体的な取組みとしては、各事業所の感染防止委員会が中心となり、職員全員の手衛生個人評価と指導を毎年行います。さらに、年間2回以上の研修会を実施し、感染症情報の提供や知識の普及と技術の向上に努めています。

日常生活では、利用者の健康状態の把握を行い、異常の早期発見に繋がっています。

また、地域の感染症情報を捉え、流行期に入る前から



感染防止委員の指導の場面

職員は出勤前の体温測定を実施し感染が疑われる場合は、勤務を検討するなどの対応を行い、感染経路の遮断に努めています。
今後とも対策を継続的に実施し、感染症の発生を未然に防止していきたいと思えます。

上如水団地高齢者徘徊模擬訓練を行いました。

中津市地域包括支援センターいずみの園 課長 伊藤 保幸

10月25日(日)、第4回「上如水団地高齢者徘徊模擬訓練」を実施しました。

今回の徘徊模擬訓練には、地域の方・子ども会・高校生・市内介護事業所・医師・警察・消防・地域包括支援センター・市等計135名の方が参加され、10班に分かれ捜索範囲を決めて実施しました。



徘徊模擬訓練の様子

徘徊役の方からは、「発見されても逃げたが、捜索班の一人の方が寄り添って声をかけてくれ安心できた」と感想がありました。警察や消防の方からは、「相手の目線に合わせて声をかけてください。本格的な訓練で、普及啓発にも役立つもので他地域に広げてほしい」との講評をいただきました。

今後は、市内の各地域でこのような取り組みが広がり、認知症の高齢者が住み慣れた地域で尊厳を持って安心して暮らすことのできる地域を目指したいと思います。

シャローム米を収穫しました！

就労継続支援A・B型事業所「ワークセンターシャローム」では、10月14日(水)、利用者5名、職員3名、実習生1名で記念すべき第1回目となる稲刈りを行いました。



稲刈りの風景

田植えから4か月、待ちに待った行事で皆、当日の朝からワクワク・ドキドキの表情です。田んぼの四隅は稲刈り機が入らないため、利用者が鎌で直接刈取り、残りは大型の稲刈り機で収穫しました。6千㎡の田んぼからはずっしり黄金色に実った2,900kgのお米(心のひかり)が収穫できました。

収穫に携わってくれた利用者は「大きな稲刈り機に驚いた!。稲刈りは大変だったけど、自分達で作ったお米は特別な思いがある。」と嬉しそうに話ししてくれました。
収穫したお米は、職員や行事(いずみの園フェスタ等)で販売しました。
来年もまた頑張りますので、どうぞ宜しくお願いします。(ワークセンターシャローム)

園内の花木を探索

「いずみの園」の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介します。

●ひいらぎ (柊)

ひいらぎはモクセイ科モクセイ属の常緑小高木。特徴的なトゲトゲした葉っぱを持ちます。

開花時期は11月から12月にかけて。小ぶりですが、香りのよい白い花が咲きます。

その特徴的な葉っぱは、触れるとちくちくと痛いんです。そのことから、手などが痛むことを意味する「疼ぐ(ひいらぐ)」が和名の語源と言われているそうです。

また、そのトゲには魔除けの効果があるとされ、古くから家の庭木として利用されてきました。園の敷地にも多く植えられており、もうすぐ訪れる春を待ちながら、今日もいずみの園のことを守っています。



ひいらぎの垣根

チャプレン通信



堤 健生

イエスは答えて言われた。「この水を飲む者は誰でもまた渇く。しかし、私が与える水を飲む者は決して渇かない。私が与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」

新約聖書ヨハネ4章

カトリック教会の方が、「修道院を創設した初代の方のスピリットは、時代を経るに従って薄れてしまうことがあり、今日の状況においてそのスピリットをどのように生かすのかを常に新しく問うています。」と言われました。

福祉の分野でも、人助けに熱心な先人の思いをどのようにして引き継ぐのか。古くて新しい課題です。

「故人の後を求めず、故人の求めたものを求める」と言われたある福祉研究者の言葉を思い出しました。

くみて尽きせぬ水が泉からわきあがる...と言われたイエス様の力と恵みを頂いて日々歩みます。

「楽」通の楽市楽座あきまのりら」に参加しました。

10月18日(日)、「いずみの園かぎせサポートセンター」の近くの蛸瀬、豊後町を通る通称、楽一通りで、「楽市楽座・楽農文楽あきまつり」が開催され、当園も参加しました。

雲一つない秋晴れの行楽日和のなか、地域の方々にお手伝いを頂き、いずみの園職員36名、計47名で軒と白でついたつきたてのお餅の販売と、子どもさんへの風船の無料配布を行いました。

地域の方と共に餅を丸め、もちつきでは、男性職員がかけ声と共に力強く杵を振り上げていました。今年も、お餅が出来上がる度にすぐに売り切れてしまい、買いたいと希望されるお客様行列ができるほど好評でした。時折一般のお客様さんも餅つきに参加され、地域の方々との交流も深められました。

お手伝いくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。

(かぎせサポートセンター)



無料の風船配布



もちつきの様子

第22回県北ハーマニーフェスティバルに参加しました。

11月7日(土)、「ダイハツ九州アリーナ」にて第22回「県北ハーマニーフェスティバル」が開催され、中津市内の高齢者施設、児童養護施設、障がい者施設11施設から、267名のご利用者が参加し、各競技に汗を流し楽しめました。

「いずみの園」からは特養のご入所者8名と「ワークセンターシャローム」のご利用者6名及び関係職員が参加しました。

午前中はサブライズレース 運命競争、玉入れ、綱引きの競技と、催し物として「今津神楽」や「中津豊田ひよっこ踊り」の披露がありました。午後からはお楽しみ会や〇×ゲーム等のレクリエーションが行われ、たくさんのお景品も用意されておりご利用者の皆様より「楽しかった」、「来年も参加したい」という言葉も聞かれました。皆様おつかれさまでした。(特養事業部)



「神楽」の催し物



玉入れの様子

編/集/後/記

この度「いずみの園」では、『2毛作会』というボランティア活動を発足し、地域の方のボランティア活動の拠点となるべく、活動をスタートさせた。

「人生」毛作、誰が言ったか知らないが、筆者も生まれて早や五十余年。勤め人として歩んできた「期目」も、そろそろ「収穫」の時期を迎えようとしている。どんな作物がとれたか、実りは豊かであったか。今さら思案したところで後悔先に立たず。収穫を楽しみに今はひたすら水をやるのみである。そして、「二期目」は何を育てようか。新しいことにも挑戦してみたいし、はたまた緑側で一日中、のんびり日向ぼっこに興じるのも良いかもしれない。今からでも楽しみたい。とはいえず収穫はまだ先。今は毎日を一杯頑張る。豊かな実りを目指すのみ。そんなことを考えながら、今はひたすら水をやるのみである。(末)



玄関での記念撮影

ですが、可愛い仮装に目を細めて喜んでくださるご利用者の方と、お菓子をたくさんもらってニコニコ笑顔の子どもの姿に、周りの方たちも自然と笑顔になっていました。

マリアガーデンのハロウィンパーティー

マリアガーデン 前田 直美

10月30日(金)に、事業所内保育施設「マリアガーデン」でハロウィンパーティーを行いました。今年も保護者の方が準備してくれた衣装を身につけ、子どもたちも朝から大喜び。保育者と一緒に、各部署を周りながら「トリック オア トリート」、「お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ」と元気いっぱい挨拶をすると「これは大変だあ〜」と言いつつながらお菓子を配ってくれました。子どもたちも、お菓子を貰うたびに「ありがとう」とお礼を言いながら、ご利用者の方と握手をしていました。帰るころには準備した袋に入りきれないほどたくさんのお菓子をもらって、子どもたちも嬉しそうに袋の中を覗き込んでいました。

塩崎厚生労働大臣が、「中津総合ケアセンターいずみの園」へ来園されました。

11月30日(月)、塩崎厚生労働大臣が「いずみの園」の視察に来園されました。まず、当法人富永理事長より、歓迎の挨拶のあと、法人概要説明を行い、事業視察として「コールセンター24時間サービス」(定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業)のサービス内容やシステムについての説明を、次に「かさざサポートセンター」、「寄り合いセンターいずみ」(小規模多機能型居宅介護)、「サマリア館」内の共生事業(高齢者、障がい児・者、子ども・子育ての母親、地域住民の交流の場)を熱心に見学され、約1時間の視察を終え、中津市役所へと移動されました。

ご多忙の中、ご来園いただきありがとうございました。(法人本部事務局)



お出迎える聖愛ホーム入居者 到着された塩崎大臣



挨拶される塩崎大臣 コールセンターの見学



入居者、職員とのお見送りの集合写真 大臣を囲んでの記念写真



次の視察先へ出発される塩崎大臣 サマリア館マルコの見学

当法人富永理事長が厚生労働大臣表彰を授与されました。

11月20日(金)、東京都千代田区の日比谷公会堂で開催された「平成27年度全国社会福祉大会」において、当法人の富永理事長が厚生労働大臣表彰を授与されました。



受賞後、会場前での富永理事長

富永理事長よりお礼の言葉
今回受賞できたのは、ひとえにいずみの園職員一人ひとりの力と、地元中津市の地域の皆様に支えられてきたからです。本当に感謝しています。ありがとうございます。

創立記念感謝祭 第17回いずみの園フェスタにご来場ありがとうございました。

10月24日(土)10:00から第17回「創立記念感謝祭 いずみの園フェスタ」が「いずみの園」の敷地内で行われました。当日は秋晴れに恵まれ、約3,500人のお客様ににご来場いただきました。

特設ステージでは、地元の吹奏楽団の演奏やダンス、マジックショー、よさこい踊り、琉球太鼓の演奏、オカリナ、大正琴の演奏など様々な楽しい催しものが行われ、毎年多くのお客様に好評を頂いているバザーコーナーも、大変な賑わいで、開場から数時間でおおかたの商品が無くなってしまっほどの盛況でした。

また、会場では屋台コーナー、餅つきコーナーもあり、予定した14時すぎに、大盛況のうちに終了することができました。

ご来場いただいた方々、200名にものぼるボランティアの方々など、今年も本場に多くの地域の皆様にご協力をいただいて、「いずみの園フェスタ」を開催することができたと改めて実感しました。これからも地域と共に、福祉の総合化を目指して、職員一同努力していきたいと思っております。

ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。(いずみの園フェスタ実行委員会)



介護職員初任者研修 (旧ヘルパー2級研修)

どなたでも受講できます。

- 実施期間：2016年1月8日～3月8日
- 募集定員：40名
- 受講費用：66,300円(テキスト代金)
- 開催会場：いずみの園内 地域交流ホームいずみ館

喀痰吸引等研修

介護職員が喀痰吸引等を行うための研修です。

- 実施期間：2016年1月7日～3月19日
- 募集定員：30名
- 開催会場：いずみの園内
- 受講費用：64,160円(テキスト代保険料含)

実務者研修(通信・通学)

介護福祉士資格取得に必要な研修です。

- 実施期間：通信 2016年2月～6ヵ月間
通学 2016年2月～8ヵ月間
- 募集定員：各40名
- 通学・スクーリング会場：いずみの園内
- 受講費用：取得資格状況により異なります。お問い合わせください。

各研修、教育訓練給付制度の対象です。

お申込みお問い合わせは 人材育成・研修センター 担当：岩崎・安藤まで

クリスマス祝会

特養事業部介護課 主任 原田あずさ

特養では毎年12月にご利用者職員全体でクリスマス祝会を開催しています。今年は12月21日に行われます。

クリスマスは、「キリストの降誕祭」とされており、いずみの園にとって大切な日だと言えます。

今年の祝会は、前年度までと異なり昼間に開催する予定で、いつもと違う雰囲気味わっていただけるように企画しています。

祝会では、堤チャップレンによる礼拝や聖書朗読、全員で讃美歌を歌います。

会場は職員手作りの飾りで温かみのあるクリスマスを演出し、毎年ご利用者にとっても喜ばれている、職員によるハンドベルの演奏などが行われます。

また当日は、栄養士、調理師の方たちの協力で多くの馳走が用意されており、これもご利用者の大きな楽しみの一つとなっています。

今年もたくさんのご利用者に笑顔で楽しんでいただくように、職員一同力を合わせて頑張りしたいと思います。



クリスマスケーキ



昨年のクリスマス祝会の様子